

宗祖御入山六百五十年紀念號

目次

卷頭一言	鈴木文亮	友の靈に手向くべき詩と文	江原白線
本尊の贊文年代に就て	鈴木文亮	棲神閣に詣で(詩)	照月
日蓮聖人門葉の管見	太田純志	理智の母(詩)	太田亦童
日蓮聖人の宗教と價值的批判	結城瑞光	哺乳類のいろ(詩)	平地光瀾
信仰の寸心を改めよ	志村皓堂	陸奥に咲ける百合花	佐藤海澄
念佛思想史に對する余の管見	福島瑞岳	自然と人生	富田海音
魂の郷地を求めて	高山惠忍	反省と努力	廣瀬潮憲
能化と所化	深澤雪堂	夏の宵	本村弘
聖日蓮の奮闘	間宮觀應	秋の觀喜	高橋是明
御草庵(散文詩)	下田冷涙	魂の叫び	中條良陽
月の囁き(詩)	中林蓮風	歩むべき道	四寛涙草
本化的文化生活	岡 鳴月	寺院と酒に就て	秋永露翠
私の生命觀	渡邊泰深	か細き秋雨(散文詩)	鍋谷寛明
偶感	小坂田龍教	寂寥(詩)	泰觀行
抱かれし本佛の懷に	二宮龍嚴	郊外の夕(民謡)	秋永露翠
平和の建設	堀内義光	魂の行へ(民謡)	太田赤童
慈悲に就て	吉川啓善	凋落の初冬(詩)	小松觀學

民謠三篇……………	結城光……七
菊、秋愁 思出草、明暗、自然の腫(短歌)……………	七
淨行(創作)……………	伊丹優曇華……八
轉變(創作)……………	下田冷涙……八
不幸なる哲人の物語(創作)……………	高崎一二……九
編輯雜記……………	子老……九
講演部から……………	鳴月……一〇
文學部から……………	赤童……一〇
運動部から……………	冷涙……一〇
會計部から……………	立谷……一五

—〔終〕—